

学習内容報告書 フォーマット

学校名	青森私立北小学校
授業者	鈴木 健司

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

陸奥湾探検隊

1-2. 学年

5年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習の時間

1-4. 単元の概要

児童にとって身近な海である陸奥湾について調査・見学を行い、分かったことを新聞やプレゼンソフトにまとめ、これからの陸奥湾について考える。

～主な学習活動～

- 陸奥湾の概要について知る。
- 陸奥湾で採れる生き物について知る。
 - ・調べたことをもとに発表会を行う。
- 陸奥湾で行われるホタテガイの養殖について知る。
 - ・水産振興センターの職員によるホタテガイの学習会
 - ・ホタテガイの稚貝の貝殻を使ったしおり作り
 - ・ホタテガイの解剖、観察
 - ・陸奥湾のホタテ弁当試食会
- 見学したことや調べたことをまとめ、発表会を行う。
- ホタテガイの養殖を中心とした、陸奥湾の現状とこれからの課題と解決策について考える。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

児童はこれまで、地引き網体験など海に関わる交流学习を学区の漁業者や関係機関職員とともにしている。身近に海があるものの、そこで採れる生き物や漁業の仕事について詳細を知らないという実態がある。そこで、身近な海である陸奥湾に生息する生き物や、ホタテガイの生態や養殖の仕方、ホタテガイの活用の仕方を調査・見学することで、陸奥湾に対する理解やこれからの環境保全について理解を深めさせたい。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

- ・身近な環境に興味関心をもち、調べたい課題を設定し、見通しをもって追究する力。
- ・収集した情報をもとに考え、感じたことを工夫してまとめる力。
- ・青森の自然の素晴らしさと陸奥湾との関わりを理解し、自分たちにできることを実行しようとする態度。

1-7. 単元の展開（全35時間）

時 数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1 （ 12 時	<p>陸奥湾に棲む生き物を知ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・陸奥湾の概要について調べる。 ・陸奥湾で採れる魚とそれらを生かした郷土料理を知る。（外部講師による食育指導） ・地引き網体験を行う。 ・興味を持った生き物を選んで、その生態や特徴を調べる。 ・分かったことを調査報告書にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・陸奥湾の概要については、調べる資料を提示する。また、全員で同じ資料を活用するほかに、インターネットを用いて、調べることができるようにする。 ・調べたことは、国語の「調査報告書」の書き方を参考にまとめさせる。 <p>【教】「おさかな自慢図鑑」「続 おさかな自慢図鑑」 著：青森水産振興課 「魚 新版」 著：井田 齊、松沢 陽士</p> <p>【教】使用アプリ：google jamboard</p> <p>【外】奥内漁業研究会、青森市水産振興センター</p> <p>【評】自分で選んだ生き物について、分かりやすくまとめることができたか。</p>
13 （ 27 時	<p>ホタテガイの養殖について知ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホタテガイと養殖の仕方について、知っていることや疑問点を話し合う。 ・ホタテの生態について知る。 ・ホタテガイの養殖の様子について知る。 ・ホタテガイの活用の仕方について知る。（ホタテ弁当の試食と稚貝の貝殻を使ったしおり作り、ホタテガイの解剖体験） ・分かったことをもとに、これからのホタテガイの養殖や漁業について話し合う。 ・プレゼンテーションにまとめ、発表会を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入の話し合いでは、素直な疑問を出し合うことで、これからの調査・見学の見通しをもたせる。また、質問事項は、あらかじめ施設に知らせる。 ・まとめる前に、分かったことから工夫や苦勞・努力に気付かせ、まとめられるようにする。 <p>【教】青森市水産振興センターの提供資料</p> <p>【外】青森市水産振興センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青森市農林水産部水産振興センター職員の協力によるホタテガイの解剖、ホタテ弁当の試食とものづくりをする。 <p>【教】使用アプリ：google jamboard</p> <p>【評】調査・見学をして分かったことをまとめるとともに、海に携わる人々の工夫や苦勞・努力に気付くことができたか。</p>
28 （ 35 時	<p>ホタテガイの養殖のこれからについて考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・陸奥湾のホタテガイ養殖の現状を確認する。 ・ホタテガイ養殖の課題を話し合う。 ・課題に対する解決策を話し合う。 ・自分たちにできることをまとめる。 ・ホタテガイの養殖のこれからについて、発表会を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習で分かったことや、ホタテガイの養殖に携わる人々の苦勞をもとに課題を見つけさせ、課題解決への糸口を考えるとともに、自分たちにできることを考えさせる。 <p>【教】使用アプリ：google jamboard</p> <p>【評】これまでに学習したことをもとに、自分なりの課題解決策を考えることができたか。</p>

単元における位置づけ

単元 35 時間中の 15, 16 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

1-8. 本時の目標

- ・ホタテガイの学習や体験を行うことで、地元で盛んに行われているホタテガイ養殖や地元漁業者が協力している『つくり育てる漁業』について理解を深める。
- ・陸奥湾の生物やそれを取り巻く環境について学ぶことで、漁業や海への関心を高める。

1-9. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>1. ホタテガイの生態と養殖の仕方について、知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・陸奥湾には私たちが調べたもの以外にもたくさんの生き物がいる。 ・青森県の平内では、1963年に初めて養殖に成功したんだね。 ・ホタテガイの養殖は、たくさんの手間がかかっている。 ・水温が高いと死んでしまうんだね。 ・ホタテガイの赤ちゃんってすごく小さい。 ・いろいろな色や模様のホタテガイがあるね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習に際しては、事前に打ち合わせを行う。 ・職員の方への質問内容は事前に集約し、相手に伝えておく。 ・事前に学習したことを活かして職員の方に質問する時間を設ける。
<p>2. ホタテガイの稚貝を使ったしおり作りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・稚貝の貝殻って全部模様が違うね。 ・小さいから並べるのが難しい。 ・きれいなしおりができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・しおり作りが終わったグループから行わせる。 ・しおり作りは、作るだけでなく貝の模様や、ホタテガイの有効活用という視点をもたせる。
<p>3. ホタテガイの解剖体験をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホタテの心臓は小さいんだね。 ・ホタテにも目があるんだね。 <p>・いつも私たちが食べている部分の他にもたくさんの部位があるんだね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・解剖に使う器具の使い方について教えてもらう。 ・生きているホタテガイを取り扱うため、手を挟まないようになど、青森市農林水産部水産振興センターの職員の方の話をよく聞き、安全に十分気を付けさせる。 ・配付教材資料をもとに部位を確認しながら順序よく解剖させる。 ・解剖が終わったグループから順番に顕微鏡を使って観察する。
<p>4. ホタテガイを使った弁当を試食する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホタテがたくさん入っておいしい。 ・家でも作ってもらおうかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホタテ漁業者の方々や、調理して下さった方々へ感謝の気持ちをもって食べさせる。 <p>【評】ホタテガイの養殖に携わる人々の工夫や苦労・努力について理解を深め、ホタテガイの養殖について自分の考えをもつことができたか（学習感想）</p>
<p>5. お世話になった人への感謝の言葉と振り返りを発表する。</p>	

2. 今回の活動の自己評価

- ・青森市水産振興センター職員のお話は非常に分かりやすく、自分たちで調べた内容をより深めることにつながった。また、調べたことに対してすぐ回答をもらえると言うことが児童にとってとてもよい学習になった。
- ・単元全体の初めに全員で共通の資料を活用したことで、学習の目的が明確になり、それぞれが解決したい課題を見つけることができた。
- ・学習のまとめでは、プレゼンテーションソフトを活用して学んだことを分かりやすく伝えるまとめをすることができた。

3. 今後の課題

- ・まとめについては、校内での発表会であったが、可能であれば見学した施設の職員などお世話になった方々に向けた発表会ができるとよい。(非接触でICTを活用した発表が考えられる)単元計画表に発表会を追記し改善していきたい。
- ・学んだことが次年度以降の総合的な学習に生かせるように、学習した内容の軌跡が残るような掲示物や資料のまとめをする必要がある。

4. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

- ・各種関係機関との連携が必要なため、連絡を密に行う必要がある。
- ・外部機関を活用した学習の時期が明確でない場合は、単元計画を調整する必要がある。
- ・5学年で活用する場合は、社会科の「水産業のさかんな地域」の学習と関連づけて行くと、より効果的である。